九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Measuring Quality of Care for Ischemic Stroke Treated With Acute Reperfusion Therapy in Japan: The Close The Gap-Stroke

連, 乃駿

https://hdl.handle.net/2324/4784464

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：CC BY-NC-ND

（別紙様式２）

氏　　名	連　乃駿
論　文　名	Measuring Quality of Care for Ischemic Stroke Treated With Acute Reperfusion Therapy in Japan ― The Close The Gap-Stroke ―
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　鴨打　正浩 副　査　　九州大学　　教授　　磯部　紀子 副　査　　九州大学　　教授　　馬場園　明

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

医療の質は、「ストラクチャー指標」(構造指標：集中治療室、専門医数など)、「プロセス指標」(手順指標：ガイドラインに記載された標準的医療の実施など)、「アウトカム指標」(成果指標：死亡率など)の3つからなる。エビデンスを持った指標（Quality Indicator,QI）を策定し、QIへの継続的な遵守を促すことが医療の質の向上に繋がるとされている。脳卒中は、日本の死因の第4位、要介護原因の第1位であり、J-ASPECT studyではDiagnosis Procedure Combination（DPC）情報を用いた脳卒中医療の可視化を行い、本邦における脳卒中医療のQIを策定した。本研究では、急性期脳梗塞のQIを対象に、DPC情報の活用が、データ収集の負担軽減やQIの継続的順守に資するかを評価した。2013～2015年に急性期脳梗塞に対して再灌流療法(t-PA静注療法、血栓回収療法)を施行した症例を、J-ASPECT研究のデータベースから抽出し、参加協力施設には、対象症例のQI測定に必要となる項目のデータ入力を依頼し、172施設から8,206症例が登録された。データ入力依頼時に、6割ほどの項目にDPC情報を入力した状態で提供し、データ収集の負担を軽減した。本邦では診断に関わる項目の順守率が高かったものの、来院から30分以内での脳血管画像の評価や、60分以内でのt-PA投与、二次予防に関する項目、深部静脈塞栓症の予防など合計6つの項目で、順守率が低いことが分かった。データ収集にDPC情報を入力したことで、症例あたり10分ほど時間が短縮され、訂正された情報と入力していたDPC情報を比べたところ、DPCの情報は9割程の正確性を有していたこともわかった。今後はQIを継続的に評価するとともに、治療結果に関係する指標を明らかにできれば、遵守率のさらなる改善に向けた介入なども検討できるようになる。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。